

こだわり詰まった展示に迫る！

たいむずす

第17号

2026年4月発行

神戸大学附属図書館
学生サポーターチーム



△人文科学図書館の展示コーナーではうりぼーがお出迎え

ULiCSが学生サポーターの目線から展示について気になることを職員さんにインタビューしてきました。第一弾は二館同時敢行！本と密接に関わる分野を支える人文科学図書館と、山上からの絶景が美しいだけじゃない人間科学図書館の、魅力が詰まった展示をご紹介します。



人文科学図書館編

世間の話題を取り入れる

ULiCS（以下、うり）…展示テーマ「江戸時代の読む・書く・描く」とそのタイトルはどのように決められましたか？

人文科学図書館 展示担当職員（以下、職員）…大河ドラマの『べらぼう〜葛重栄華乃夢斬〜』（二〇二五）が話題になっていたので、江戸時代の出版にまつわる展示をしようと思いました。タイトルは展示する図書を決めてから考えています。テーマに絡めた人文科学図書館にある様々な種類の資料を展示するため、出版に至るまでの「書く」と「描く」それから出版されたものを「読む」という三つのテーマをタイトルに入れました。

人文科学図書館の独自性を求めています

うり…今回展示した本はどのような経緯で選ばれましたか？

職員…最初はシンプルな「江戸時代」「出版」などのワードでOPACを検索し、ある程度候補を出します。関連する資料も同時に表示されるので、そこから良さそうな本を挙げる



式にブックアップします。最後は書架に行き、実際に見て面白そうだと思った本を選んでいきます。他館に複本がなく、人文科学図書館だけが所蔵している本を意識して選んだりもしますね。うり…他に選書で意識することはありますか？

職員…請求記号を見て、分野が偏りすぎないように心がけています。あと、留学生の方がテーマ展示を利用されることは少ないので、今年度は可能な限り外国語の図書も展示しました。うり…この展示の見どころはどこですか？

職員…よく注目される「書く」と「描く」、文学の書き手や絵の描き手だけでなく、「読む」ことについての図書も取り上げたところです。展示の中には、出版された本の読まれ方や、知識の広まり方という、教養の形成過程に関する本もあります。人文科学図書館の特色を活かす展示を目指しました。

いろんな本があると知ってほしい

うり…展示コーナーで面出し（表紙を見せる置き方）する本はどのように選びましたか？

職員…目に留まりやすいものや、いろいろな人が読めそうな入門向けのものを選んでいきます。あとはパラパラと見ても楽しめるような、手に取りやすいと思う本をよく見えるように置いていますね。

うり…準備で一番楽しかったことと、難しかったことは何ですか？

職員…本を選ぶときに、普段の書架整理ではあまり意識していなかった本や、面白そうな本に出会えることが楽しいです。難しいのは、人文科学図書館にある本を展示するとすると、どうしても少し学術書に寄ってしまうことですね。入門的な本が少ないのは悩ましいところですが、三百ページぐらいの本をどんと置いて利用者の方が気軽に手に取れるかというと、少しハードルが高いと思うので。

うり…どこに注目してほしいですか？
職員…なるべくいろいろな分野を展示しているところですか。今回だと「文学と経済」のような、意外な組み合わせのテーマの図書もあることを、知ってもらえると嬉しいです。

展示本から広い世界へ！

うり…利用者にメッセージをお願いします。
職員…この展示テーマは、国文学や歴史学の分野を専門に勉強している学生さんにとって、

も面白い本があるので、ぜひパラパラと見て、広い世界に触れてもらえたら嬉しいですね。

今回に限らず、展示をきつかけに、あまり貸出のない本も目に留まればと思っています。

気になる本はぜひ触ってみてく
ださい。



△展示されていた本の中で、職員さん一押しの本

人間科学図書館編

人間発達環境学研究科はファッションがアツい



うり…「ファッションのことがもつとわかる本」という展示テーマとタイトルはどのようにして決められましたか？

人間科学図書館 展示担当職員（以下、職員）…図書館には先生方から推薦された本が入ってきます。近年の推薦図書で、面白そうな本がたくさん入っていたファッションに関する展示をしようと思いました。見た人が何をテーマにしているかすぐにわかるようなタイトルをつけました。

うり…展示する本はどのように選ばれましたか？

職員…ファッションをテーマにしているので、ファッションと、その関連語（衣類・衣裳・被服など）で本を探し、見て手に取り、こんなのもあるのかという発見があった本を選びました。

うり…人間科学図書館が所蔵しているファッションに係る本全てを集めたのですか？

職員…いえ、人間発達環境学研究科にはファッションを専門にされている先生もおられますし、ファッションに関する本はすぐたくさんあります。その中から一回の展示で四十から五十冊ほどを展示する想定で選んでいます。ですので、展示にあるファッションの本はごくごく一部です。

見て楽しい本・読んだためになる本

うり…この展示の見どころは何ですか？

職員…専門書から見るだけでなく楽しいビジュアルブックまで色々集めたところです。展示コーナーを見て楽しいなと思っていただける本や、ファッションのことを研究したいという方が読まれて有益になるような本も集めたつもりです。ぱっと見て楽しい感じですよ。コーナー

全体がパッと華やぐ感じかなと思います。うり…展示に並んでいる表紙がすごくカラフルだなと感じました。

職員…そう、華やかなんです。推薦図書が入ってきた時にも、こんな綺麗な本が入ってきたのだから、ぜひ注目していただきたいなと思っていました。

うり…展示には面出ししている本がありました。それはどうやって決めていきますか？

職員…展示器具の制約はありますが、ファッションを専門にしている本学の先生がお書きになった本はなるべく面出しするようにしています。しばらく面出しで置いておけるけれど動きがない時には、別の本に変えることもあります。

▽大きな什器とカラフルな書影が目を惹く



うりこのかわいさも伝えたい

うり…準備で楽しかったことは何ですか？

職員…リストアップした図書を手に取ってみると、自分でも借りて読んでみたくなった本がたくさんあったことです。

うり…注目してほしいところがありますか？

職員…今回に関しては、人間発達環境学研究科のファッションが専門の先生の著作を数冊展示したところですね。

あと、私がテーマ展示をする時には、ポスターにうりこを入れるようにしています。うりこ見てほしいんですよ！ぜひ利用者の方にも、うりこの可愛さを見てもらいたいです。

職員…うりこ可愛いですよ、表情豊かですし。うりこ…利用者の方々に伝えたいことはありますか？

職員…神戸大学附属図書館の中では総合・国際文化図書館が一番幅広いジャンルを備えています、

実は人間科学図書館も結構幅広いジャンルの資料を所蔵しています。本当に多様な分野を研究されている先生がおられるので、テーマ展示を通して、「この図書館こういう本もあるんだ」という発見をしていただけると嬉しいです。



△人間科学図書館の展示紹介POP

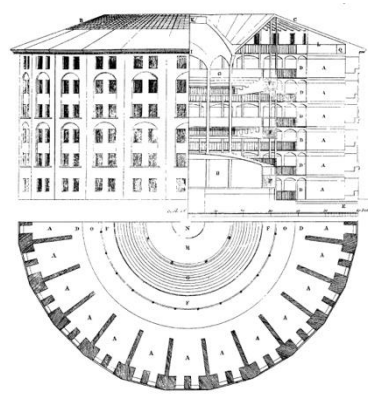
書評

ミシェル・フーコー『監獄の誕生（新装版）―監視と処罰―』 田村淑訳、新潮社、二〇二〇

ほんの数年前、突如として私たちの生活は新型コロナウイルスに翻弄されることになった。緊急事態宣言が出され、マスクが買い占められるといった混乱も発生した。しかし奇妙なことがある。なぜ多くの人々は外出を自粛し、事態がある程度収束した後でもマスクをつけて生活していたのだろうか。法的な拘束力は限定的であったにも関わらず、人々が従順に「要請」を受け入れた背景には、単なる刑罰による強制とは異なるメカニズムが働いていることは明らかだ。ではどのように人々を自主的に従わせる力

とは一体どういうものなのだろうか。この本はそんな問いに答えてくれる。

中央の塔から建物の外周にある監房に閉じ込められた囚人たちを監視する施設のことを一望監視施設（パノプティコン）という。囚人には塔の内部は見えず、いつ自分が監視されているのかはわからない。そのため実際には見られていなくても囚人たちは規律を守るようになる、すなわち自分で自分自身を監視し「基準」に適合するように作り替えていくのだ。そしてフーコーによればこの一望監視施設の構造は病院や軍隊、学校などの社会のいたるところで発見されるのだという。例えば学校では生徒たちは毎朝出欠を管理され、切り分けられた時間の中である科目の授業を受け、学期末にはそれらすべてが成績という形で評価される。このような時間の分割・運動の停止と定着・試験による評価を通じて生徒たちの身体を従順で有用なものに作り替えていく力が一望監視の仕掛けの中に確かに存在しているのだ。



△ベンサムによるパノプティコンの構想図 (Wikipedia パブリックドメインより)

一望監視施設の中で働くこの力のことをフーコーは「規律・訓練型の権力」と呼んでいる。規律というと法律もその一種だと考えるかもしれない。確かに一見規律・訓練は下位の細々とした法律を作り出しているように思われる。しかし実際規律・訓練は

反・法律的な性格をもつ。というのは法律があれこれしてはいけないと禁止する権力であるならば、規律・訓練はこうあるべきという規範に沿わせる権力だからである。本来対等な二者の間に締結される労働契約に反して企業の就労規則が固定された従属関係と権力のかたよりを生み出すのはこのためである。規律・訓練は法律による制限を迂回して、権力の不均衡を強めてしまうのだ。

ここで権力を行使しているのは王侯貴族のような特定の行動主体ではない。権力の源は相互に観察しあうネットワーク、一望監視の仕掛けの中にある。そのため私たちが権力に丸裸にされ隅々まで観察されるのに対して権力自身の形をはっきりと見ることが難しいのだ。そして外出の自粛が感染症の拡大を食い止め、工場における規則が効率的な労働を可能にさせるように、一望監視施設がもつ規律・訓練型の権力には対象の効用を増大させる働きがある。加えて規律・訓練は道徳の具体的な様式として捉えられることが多い。それはちょうど外出を控え、マスクをし、ワクチンを接種することが他人にウイルスをうつさないようにする道徳的な心掛けと見なされたことに対応する。以上の理由からこの権力の存在に気がつくことは難しく、気がついてもそれを皆が納得する形で批判することもまた困難なのだ。

この本は私たちの生活に当然のように浸透している「規律・訓練の権力」の存在を鮮明に暴き出す。私たちは公共空間に監視カメラが無数に設置され、プライベートなまでの含む細々とした膨大な情報がインターネット上で不特定多数から監視される時代を生きている。私たちは有用であるが故に拒絶しがたく、息の詰まるこの規律・訓練との向き合い方についてより一層考えてゆかねばならない。そんな今だからこそ読む価値のある一冊だと思う。

理学部三年 井上

最近の活動紹介

〇〇が選ぶ一文

図書のある一文だけを展示して気になる本を選んでもらう展示企画。タイトルや表紙を見て選んだり、キーワードから検索したりするときとは一味違った方法で、本と出会うことができる。4度目の開催となった2025年度版は、以前までの「書き出しの一文目」という縛りをなくし、展示と投票という2つの企画を実施した。展示では、ULiCSメンバーらが選んだ本を紹介。推薦者からのコメントもつけた。チームは多様な読書経験を持つ学生で構成されているため、それらを活かすことができる絶好の機会だ。利用者参加型の投票企画では、利用者に、心に残っている本の一文を投じてもらった。こちらでも様々な分野の図書が選ばれていた。意見を頂戴した本はその後展示に追加し、展示コーナーがよりバラエティ豊かになった。参加してくださった方々にはこの場を借りて感謝申し上げます。盛況を博し、貸出中の本が多く見られた（そんなときのために実はOPACにリンクするQRコードも設置していた）。



神戸大学出版会しゅっぱんまっぷ

神戸大学出版会の刊行物を神戸大学のマップ上に配置して、各書の題材に関連する分野をわかりやすくまとめた展示物。大学関連の書物は気になるけれど、何を手に取ればよいか迷ってしまう人のための、読書活動を案内する地図になっている。2023年1月に制作した旧版に、2025年度夏までに出版された書籍の情報を加えてリニューアルした。出版物の多様さをアピールする学部・研究科別の色分けはそのままに、地域連携推進本部に関連しているシリーズものをまとめたり、本に熱中するうりこのイラストを載せたりして、分かりやすく目につきやすいポスターになるように制作した。制作時の苦労は、ドロップされたピンが、地図上で建物の位置にできるだけ重なるように配置するための調整。細かな作業を繰り返し、完成版の位置に収めることができた。ポスター下部には出版会のホームページにリンクするQRコードも載せているので、新刊情報などが気になる方はぜひそちらもチェックを。



うりくす文庫

総合・国際文化化学図書館カウンター裏の展示コーナーで「うりくす文庫」としてメンバーのおすすめ本を置いているもの。メンバーの手作りポップが目印。最近では、昨年秋にノーベル生理学・医学賞を受賞された坂口志文教授（大阪大）の著書をピックアップしたり、メンバーが設定したテーマに沿って日本の妖怪にまつわるいくつかの書籍を紹介したりした。本文庫の魅力は、書架に眠っている図書を自分の切り口で選んで日の目を浴びる場所に展示できるところ。大学図書館の豊富な蔵書も、利用者に読まれることで初めてその価値が十分に発揮される。テーマ選書という形で本を紹介することは、単に資料を並べるだけでなく、本と利用者とを新たに結び直す試みでもある。多様な視点から蔵書の魅力を掘り起こし、図書館をより身近で発見に満ちた場として発信していきたい。

